



スマートフォンで
「イセサキ」を
ご覧いただけます
（※有料）



魅力ある高校生にインタビュー

明日へ ジャンプ

No.196

互いに支え合い インターハイに全てを懸ける

伊勢崎清明高等学校 2年 遠坂 美乃莉 さん(左)・土屋 佑愛 さん(右)

伊勢崎清明高校女子バドミントン部の遠坂さんと土屋さんは、高校1年生の頃からダブルスでペアを組んでいます。プレースタイルに相性の良さを感じ、ペアを組むことになったという2人に、お互いの良いところを聞きました。

遠坂「常に冷静でいてくれるところなんです。私は感情が表に出てしまいがちですが、隣で落ち着いてくれるので、私も冷静さを取り戻すことができます」

土屋「精神面で支えてくれるところなんです。追い込まれた時でも暗くならないように、いつも声をかけてくれるので支えになっています」

2人は昨年の5月から6月にかけて開催された全国高校総合体育大会(インターハイ)県予選会でも、その相性の良さを発揮。2年生ながら見事準優勝を飾り、インターハイへの切符を手に入れました。

同年7月、少しでも多くのものを得られるよう、チャレンジする気持ちで臨んだというインターハイは、悔しくも初戦敗退。全国とのレベルの差を感じることとなりました。

遠坂「全国のレベルにはまだ

及ばないことを実感しました。3年生として迎える次のインターハイは負けられないという気持ちも芽生えました」

土屋「技術面も精神面ももっと成長が必要だと感じました。インターハイを経験して、今までよりも試合で勝ちにこだわるようになりました」

2年生で挑戦したインターハイの舞台では、3年生での躍進につながる良い経験ができたと言います。2人。「今年もインターハイに出場してベスト16に入りたい。高校生活を最後にバドミントンからは離れるため、最後のインターハイに全てを懸けたい」と同じ目標を語る2人の目には力強さがありました。

プロフィール

えんざか・みのり(右)
小学1年からバドミントンを続けている。趣味は読書で特にミステリー小説が好き。

つちや・ゆめ(左)
小学4年からバドミントンを続ける。休日は友人と買い物やカフェなどに出かけ、息抜きをしていると話す。



■廃棄する場合は「雑古紙」としてリサイクルしてください。

3月28日(金)にいせさきFMで放送します ●午前7時54分～ ●午後1時25分～ ●午後5時50分～

今月のインフォメーション



本市の人口(2025年2月1日現在)

■人口 211,887人(前月比-197)
■世帯数 96,968戸(前月比-70)



編集後記

今号では先日行われた、市長が市内で活躍する皆さんと市政の課題などについて話し合う「イミティンク」について紹介しています。今回は7人の高校生をパネリストに迎え、「高校生と考えるウェルビーイング」をテーマに開催。パネリストの考えや提案を聞き、自分にとってのウェルビーイングは何か、夢は何かなどを改めて考えるきっかけになりました。高校生ならではの意見から学ぶことも多くあり、取材で携わることができて良かったです。

(つ)